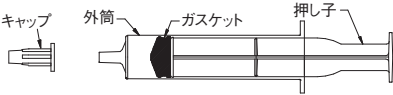
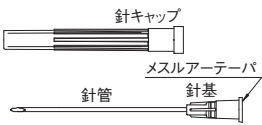
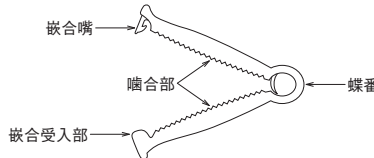
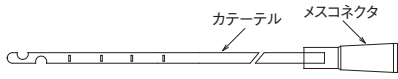
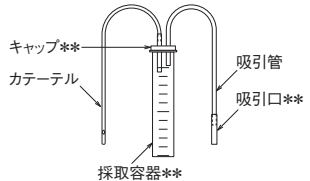
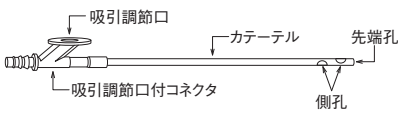


再使用禁止

 $\frac{1}{2}$

JMS OBセット構成品（医療機器）の形状・構造、使用方法及び使用上の注意等

形状・構造等**	使用方法等**
<シリンジ>  <注射針> 	1.シリンジと注射針をしっかりと接続します。 2.押し子を押し、外筒内部から空気を完全に押し出します。 3.針先を傷めないように、針キャップをまっすぐ引いて取外し、使用します。 使用方法に関連する使用上の注意 ●シリンジと注射針を接続する際は次の事項を順守すること。 (1) 過度な締め付けをせず、横方向の力を加えないこと。[筒先の破損や液漏れ、エアの混入が生じる可能性がある。] (2) 針基部に対し、過度な締め付けや横方向への負荷を加えたり、針キャップで針基に回転方向への過負荷をかけたりしないこと。[針基の破損により液漏れ、エアの混入が生じる可能性がある。] (3) 接続部に薬液又は血液を付着させないこと。[接続部に緩みが生じる。] (4) 針キャップを付けたまま接続すること。 (5) 確実にしっかりと接続し、漏れ等の異常がないことを確認すること。 ●針キャップを外す際は、針先がキャップに接触しないように注意し、ねじり及び傾けて外さないこと。[注射針がシリンジから外れる、又は針先を傷める可能性がある。] ●バイアルや薬液容器等のゴム栓に刺通する際は次の事項を順守すること。 (1) 本品を斜めに刺通したり、刺通中に横方 向への力を加えたりしないこと。[注射針の変形や破損が生じる可能性がある。] (2) ゴム栓への刺通はゆっくり、まっすぐ行い、同一箇所を繰り返し刺通しないこと。[刺通部分を削り、針管内に詰まりが生じる、又はゴム片等が混入する可能性がある。] ●アンプル等の薬液容器壁面に針管を接触させないように注意すること。[針先が傷み、穿刺しづらくなる可能性がある。] ●押し子を引く際は次の事項を順守すること。 (1) 外筒印刷部の目盛以上に引かないこと。[押し子が外筒から抜け、液漏れが生じる可能性がある。] (2) 押し子をまっすぐゆっくり引くこと。[強く引く、ねじりながら引いた場合は、外筒との密着性が低下し、液漏れやガスケットの外れが生じる可能性がある。] ●外筒印刷部については次の事項を順守すること。 (1) 目盛を強くこすらないこと。[目盛が消える可能性がある。] (2) 薬液等が付着した状態で放置しないこと。[目盛が剥離する可能性がある。] ●輸送中に注射針が緩む可能性があるため、使用前に確実に固定されていることを確認すること。
<臍帯クリップ>** 	確認し、本品の蝶番部分を切って取外します。 使用方法に関連する使用上の注意 ●結紮部をよく確認して使用すること。[一度本品を締めると、嵌合嘴と嵌合受入部が外れなくなる。]** ●本品の使用、結紮部が開放した場合は新しい製品に交換すること。* 1.腹部から約2cm離れたところでへその緒を本品で締めます。* 2.へその緒は本品から胎盤側に約1cm離れたところで切り離します。* 3.臍帯が確実に結紮されていることを確認し、結紮・切断の約30分～1時間後には臍帯から出血のないことを確認してください。* 4.約24時間後にへその緒が十分乾燥したことを
<ネラトンカテーテル> 	クタに接続します。 使用方法に関連する使用上の注意 ●カテーテル挿入時に異常な抵抗を感じた場合は、無理に挿入せず、カテーテルを抜去すること。 ●排尿を確認できない場合は、カテーテルに折れや閉塞がないか確認すること。 1.外尿道口周辺を消毒します。 2.外尿道口にカテーテルを先端から挿入します。 3.カテーテルの排液口から尿が出てくることにより、カテーテルの先端が膀胱内に入ったことを確認します。 4.ドレンバッグ(排尿用袋)又はドレンチューブのオスコネクタをカテーテルのメスコネ
<気管カテーテル>** 	部位の粘膜の損傷に十分注意すること。* ●接続部を曲げたり、カテーテル及び吸引管を過度に引っ張ったり、押し込むような負荷がかからないようにすること。[接続部の外れ及び液漏れ、カテーテル及び吸引管の破損等が生じる可能性がある。]** ●吸引時は、吸引物に接触しないように行うこと。[感染の可能性がある。]** ●吸引時は、吸引物が採取容器にたまる量を確認しながら行うこと。[逆流の可能性がある。]** 1.カテーテルを口腔内、鼻腔内又は気道内に挿入します。* 2.吸引口を口でくわえて異物等を吸引します。* 3.吸引終了後、カテーテルをゆっくり抜去します。* 使用方法に関連する使用上の注意 ●採取容器内にある吸引管の先端が吸引した吸引物に浸漬しないよう注意すること。又、吸引管の先端がカテーテルの先端より下に位置しないよう注意すること。[吸引した異物を吸い込む可能性がある。]** ●挿入時及び抜去時は口腔、鼻腔等挿入する
<吸引カテーテル>** ○構成(代表例) 	●吸引時は口腔、鼻腔、咽頭、喉頭、気道粘膜への損傷に十分注意すること。 ●本品のカテーテルとコネクタの接続部には、カテーテルを折り曲げたり、過度に引っ張ったり、押し込んだりするような負荷がかからないようにすること。[接続部の外れ及び液漏れ、本品の破損等が生じる可能性がある。]** 1.本品を吸引器側としっかりと接続します。 2.吸引圧をかけない状態でカテーテルを目的部位まで挿入し、吸引を開始します。 3.吸引調節口付タイプは手指で吸引調節口をふさぐことにより吸引圧を調節します。 使用方法に関連する使用上の注意 ●吸引調節口付タイプは、飛散防止機構付コネクタを使用しているが、場合によっては手指が汚染されるので注意すること。
<手術用ゴム手袋>** 左手用及び右手用を一組にしたものである。 ・形状：C(曲指形) ・表面仕上げ：T(粗面)	●刃物など鋭利な器具に触れると破れたり、穴があく可能性があるため注意すること。 ●薬品、溶剤等によっては膨潤したり、浸透したりする可能性があるため確認の上、使用すること。 ●使用中に手袋が破れた場合は、新しい製品に交換すること。* 1.包装から台紙ごと手袋を取出します。 2.台紙の折り返し部分をつまんで開き、手袋を取り出して装着します。 3.手袋のパウダを滅菌水等で除去します。 使用方法に関連する使用上の注意 ●手袋は無菌的に装着すること。 ●手袋表面のパウダを十分に除去してから使用すること。
<ガーゼ>** セルロース繊維を用いており、布や球形状のものがある。*	セッシン等を用いて、清潔な状態で使用します。* 使用方法に関連する使用上の注意 ●使用中汚れた場合は、新しい製品に交換すること。*

※各構成品の寸法・入数等は製品の型式によりそれぞれ異なります。